

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24510060

研究課題名(和文) 生命地域を基礎とした持続可能な開発のための教育(ESD)のモデル構築に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Establishing a Promotional Model of Education for Sustainable Development (ESD) Based on the Concept of Bioregion

研究代表者

古澤 礼太 (FURUSAWA, Reita)

中部大学・中部高等学術研究所・准教授

研究者番号：70454379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)を推進する地域モデルの構築とその主流化に向けた手法を明らかにするものである。国連大学が認定する世界149のESD地域拠点(RCE)のひとつである中部ESD拠点(RCE Chubu)を事例に取り上げ、参加型調査を行った。その結果、東海三県(愛知県・岐阜県・三重県)に広がる、伊勢湾と三河湾に注ぎ込む河川の流域圏をひとつの生命地域(Bioregion)として捉えてESDを推進する「生命地域/流域圏ESDモデル」の構築プロセスと、その主流化に向けた提言活動の効果を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The objective of the research was to clarify the methods of establishing a regional model of promoting Education for Sustainable Development (ESD) and the approach towards the mainstreaming the model. It was carried out by participatory research in the case of RCE Chubu, one of the 146 Regional Centres of Expertise on ESD acknowledged by United Nations University. As a result, the process of establishing the Bioregional/Watershed ESD Model by treating the watersheds of the rivers pouring in to Ise and Mikawa Bay as a bioregion in the Tokai Area (Aichi, Gifu and Mie Prefecture) and the effect of advocacy through international organizations and conferences for the mainstreaming of the model were revealed.

研究分野：ESD、文化人類学

キーワード：ESD RCE 生命地域 流域圏 持続可能な開発のための教育 国連ESDの10年 ESDに関するユネスコ世界会議 伝統知

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初の背景として、国連が2005年から2014年までの10年間で実施した「持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) の10年」の存在がある。

「持続可能な開発 (あるいは発展)」の考え方は、1972年にストックホルムで開催された国連「人間環境会議」以降、地球規模で議論が高まった「環境と開発」の問題に関する国際的な共通の目標として、1980年代に提示された概念である。

一方、ESDの国際的な展開は、1992年の「環境と開発に関する国際連合会議 (リオ・サミット)」で、持続可能な開発を実現するための人材育成 (教育) の必要性が論じられたことに端を発する。2005年の「ESDの10年」の開始に伴い、国連大学は、ESDの地域拠点計画 (RCE: Regional Centres of Expertise on ESD) を開始した。リオ・サミット以降、環境と開発の問題の解決に進展がなかったことの原因のひとつとして、国連や国家主導のトップダウンの働きかけが地域住民の内発的な活動につながらなかったことによるものとの反省があったからである。

こうして、地球規模の諸課題の解決のためには、地域レベルの持続可能性の向上に向けた内発的な取り組み、とりわけ、その実現のための学びや教育 (ESD) が重要であることが国際的に認識された。上記の背景の下、ESDを地域レベルで推進するための手法の検討が求められた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1) 地域レベルで推進するESDモデルの構築および(2) 国際社会における当該モデルの主流化のための手法を明らかにすることである。特に、ESDの推進に際して、環境・社会・経済の統合を目的とした手法を確立するために、生態系による区分域である「生命地域 (Bioregion)」の概念を用いた手法の確立をめざした。本研究では、国連大学が認定している世界146カ所 (平成28年3月現在) のRCEのひとつである中部ESD拠点 (RCE Chubu) を事例に、多様な主体 (マルチ・ステークホルダー) の参加によるESDの推進モデル構築の過程に着目した。2014年に愛知県で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」をはじめとする国際会議や国際的なネットワーク活動を通じた、当該モデルの主流化に向けた取り組みの効果について評価を行った。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、中部ESD拠点のモデル構築活動および国際的な情報発信と提言活動を対象として、下記の方法で参加型調査を行い、そのプロセスを分析し、

成果を評価した。

(1) 中部ESD拠点が取り組んだ、伊勢・三河湾流域圏 (伊勢湾と三河湾に注ぎ込む河川の集水域) を地域単位として推進するESDの地域モデル構築のプロセスを分析し、その効果を明らかにした。

(2) 生命地域/流域圏ESDモデルの主流化に関して、「ESDユネスコ世界会議」をはじめとする国連機関の国際会議における提言活動を参与観察し、その成果を分析・評価した。

4. 研究成果

本研究の成果として、(1) 生命地域/流域圏を地域単位としたESDの推進モデル構築手法、(2) モデルの主流化プロセス、(3) 伝統知を用いたESD推進手法の発展可能性、を明らかにした。

(1) 生命地域/流域圏を地域単位としたESDの推進モデルの構築

中部ESD拠点は、地域におけるESDの推進ネットワークとして2007年に国連大学からRCE認定を受けた。当初から、活動対象地を、行政区域ではなく、生態系による区分域である生命地域として伊勢・三河湾流域圏と設定していた。

本研究期間内に、中部ESD拠点は、生命地域のESD活動を進めると同時に、ESDの推進モデル構築を目的とした分科会活動を展開した。筆者は、中部ESD拠点の事務局業務に携わり、参加型調査を通して、これらの活動の成果と課題を明らかにした。

地域のESD活動としては、伊勢・三河湾流域圏内の11河川および愛知用水の12主要河川の上流域・中流域・下流域の3地点で、地域課題について現地で学ぶESD講座を実施した。講座の実施に際して、各地点で象徴的な地域課題を調査・収集し、それらの解決に取り組むNPO、学校、企業等の主体と連携して、ESD講座の実施を行った。講座のテーマは、環境問題、社会問題、経済問題の多岐にわたった。2012年度から2014年度までに、12主要河川、各3地点の3年間、合計108講座が開講された。

この取り組みに対する評価は、以下の3点に集約できる。

まず、当該流域圏全域で、環境・社会・経済に関わる諸課題を取り上げたことにより、分野横断型で進める総合学習としてのESDの側面が可視化できたことである。次に、

多様な主体の参加による講座の実施により、異分野の活動主体の交流が実現した点である。各年度末に実施された全講座の発表会および交流会を通して、異なる地域活動に取り組む人々が情報交換を行い、総合的な地域課題の解決をめざす、地域主導のESD活動に対する理解が深まった。この手法は、行政区を超えた活動であるため、行政機関の協力を得ることが難しいという課題は残ったが、民間による持続可能な社会づくりの取り

組みとして、日本全国、特に湾や内海を有する地域において応用が可能であることが明らかになった。

ESD 講座の加えて、中部 ESD 拠点では、ESD の推進モデルを検討する分科会活動が実施された。社会的企業(企業・NPO など)、学校教育、高等教育の主体別分科会と、国際協力、伝統文化(伝統知)のテーマ別分科会活動を通して、生命地域で進める ESD のモデル構築に関する検討を行った。その結果、2014 年の「ESD に関するユネスコ世界会議」の開催に合わせて「生命地域/流域圏 ESD モデル」を完成させた。当モデルは、世界各地の多様な文化を形成する生態系としての生命地域を単位として、その中で地域知・伝統知を用いて工業や農業等の「ものづくり」の持続可能性を検証し、地域間の相互学習としての ESD の対話を通して持続可能な社会づくりをめざすものである。

筆者は、この検討プロセスおよびその成果と課題についての考察を行った。その成果は、地域内外の大学、学校、NPO、企業関係者を対象とした講演等のアウトリーチ活動を行い、広く、流域単位で推進する ESD に対する理解と意見を求めた。

(2) 生命地域/流域圏 ESD モデルの主流化

さらに、本研究では「生命地域/流域圏 ESD モデル」の主流化に向けた活動の過程を明らかにし、その効果について検証を行った。

当該モデルの主流化に向けた活動は、国際会議における提言活動および研究会活動によるモデルの発展に関する検討作業であった。

中部 ESD 拠点は、国連「ESD の 10 年」の最終年合会である「ESD に関するユネスコ世界会議」の愛知県開催に備え、モデルの完成時期を 2014 年に合わせ、開催地からの提言として発表することを目標としていた。そのため、ユネスコや国連大学および開催地愛知県との交渉を行い、地域主導の ESD 活動の事例としての当モデルの発表の機会を模索した。最終的には、筆者が「ESD ユネスコ世界会議」本会合の公式ワークショップのひとつである「地域主導(Local Initiative)による ESD」の分科会コーディネーターに任命され、分科会内で「生命地域/流域圏 ESD モデル」を事例として取り上げた。

また、国連大学 RCE のアジア太平洋会議や世界会議においても、当モデルの紹介と深化のための対話の呼びかけを行った。その結果、生命地域単位で推進する ESD 活動の情報共有等の連携について、マレーシア、オーストラリア、ベトナムの RCE と協議を始めるなどの成果があった。

さらに、研究期間終期には、ポスト「ESD の 10 年」事業としてユネスコが進める ESD の「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」のキーパートナーに中部 ESD 拠点が選ばれた。GAP の 5 つの優先分野のひとつである「地域主導」の分科会で生命地域/流域

圏 ESD モデルの国際連携についての検討を行っている。また、研究期間最終期に応募申請を行った、ESD の褒賞「ユネスコ/日本 ESD 賞」の国内公募の結果、当該モデルによる ESD 活動が、日本からユネスコ本部へ推薦される 3 件の優良事例の一つとして選ばれた。以上から、国連機関との連携および国際会議、褒賞制度への積極的な参加は、ESD の地域モデルの主流化に効果的であったと言える。

国連機関のネットワークおよび国際会議における提言活動に加えて、「流域圏 ESD 研究会」を開催して当モデルの発展についての検討を行った。「ESD ユネスコ世界会議」の成果文書「あいち・なごや宣言」に明記された、開発途上国との協働について、研究会に LDC (Least Developed Countries) Watch の代表アンジュン・カルキ氏を招き、議論を行った。また、研究期間内の最後の研究会では、伊勢志摩サミットにおける NGO 枠での提言活動についての準備と討論を行った。

(3) 伝統知を用いた地域主導の ESD 推進

本研究の開始当初には予定していなかったテーマで、研究中期からその重要性を認識したもののひとつが、ESD における「伝統知(Traditional Knowledge)」の役割である。伊勢・三河湾流域圏における風土に根差した伝統的な知恵を、現代社会における環境保全や地域活性化といった ESD のテーマに対して効果的に活用できるのではないかという問題意識の下、情報や事例の収集を行った。特に、生活に密着した衣食住の視点から調査を行っている。

国際的には、ガーナ共和国の首都アクラにおいて、漁民文化の調査を行った。ヨーロッパ列強による植民地都市として形成されたアクラで維持・発展する伝統王権に見る伝統知に関して研究を進めている。

伝統知を用いた ESD の手法の開発に関しては、今後の研究課題として更に掘り下げる予定である。

以上のように、本研究では、中部 ESD 拠点を事例とした参加型調査に基づき、生命地域を単位とした地域における ESD の推進モデルの構築および、国際社会での主流化に向けた取り組みの過程とその効果を検証した。地域からのボトムアップの ESD 活動を国際社会の中でどのように位置づけ、グローバルな地域間の連携と相互学習を促進できるか、という問いに対するひとつの応答となったと考える。

5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

古澤礼太、生命地域(Bioregion)としての流域圏を対象とした「持続可能な発展のための教育(ESD)」の推進 中部 ESD 拠

点の取り組み事例から、ARENA、査読無、No.15、2013年、pp.106 - 115

FURUSAWA, Reita & MUSHAKOJI, Kinhide, Multicultural Dialogue for Sustainability - The Biodiversity Cyber Dialogue Project, , Innovation in Local and Global Learning Systems for Sustainability: Traditional Knowledge and Biodiversity - Learning Contributions of the Regional Centres of Expertise on Education for Sustainable Development, United Nations University Institute for Advanced Studies, 査読無, 2013, pp.78-83

〔学会発表〕(計 19 件)

古澤礼太、SDGsにおける『流域圏(生命地域)ESDモデル』の展開、第3回流域圏ESD研究会、2016年2月29日、中部大学名古屋キャンパス(愛知県・名古屋市)

古澤礼太、ガーナ共和国沿岸部ガ民族のトウモロコシ祭り - オス地区のホモウオ祭りを中心に -、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の歴史生態人類学的研究第4回シンポジウム「西アフリカの海洋文化」、2016年1月21日、中部大学(愛知県・春日井市)

FURUSAWA, Reita, Developing Learning Methods of Sustainable Manufacturing in Education for Sustainable Development (ESD)--A Case study of RCE Chubu in Japan--, International Conference on Industrial Technology Education for Sustainable Development in "Technology Education, Engineering Education, TVET and STEM Education", ICITE for SD-2015, 6-7 Nov. 2015, Chubu University (Kasugai, Aichi)

古澤礼太、持続可能な開発のための教育(ESD)の連携をめざしたイベント実施の現状と課題、イベント学会第18回研究大会、2015年10月20日、ミッドランドスクエア(愛知県・名古屋市)

古澤礼太、サブサハラ・アフリカにおける「持続可能な開発のための教育(ESD)」の諸相、第53回日本アフリカ学会学術大会、2015年5月23-24日、犬山国際観光センター『フロイデ』(愛知県・犬山市)

FURUSAWA, Reita, The Role of University as a hub of ESD Multi-Stakeholder Networks, A201 A-SLEAD National - Leading Higher Education Institution for Sustainable

Development, 14.Apr.2015, AKEPT, (Negeri Sembilan, Malaysia)

FURUSAWA, Reita, Enhancing the Commitment of NGOs in ESD through the RCE Chubu Bioregional ESD Model, The 6th International Conference on Environmental and Rural Development, 7-8 March 2015, Bohol Island State University, (Bohol, Philippines)

古澤礼太、流域圏ESDモデルと国際的ESD対話、国際シンポジウム「流域圏ESDモデル」の国際的な役割(共催:中部ESD拠点、第2回流域圏ESD研究会)2015年2月7日、中部大学名古屋キャンパス(愛知県・名古屋市)

古澤礼太、ガーナ共和国ガ民族の食文化に見るトウモロコシの発酵主食 - 発酵食コミ(ケンケ)の事例から -、日本沙漠学会沙漠誌分科会研究会「熱帯地域における酒と発酵食品」、2015年1月31日、総合地球環境学研究所(京都府・京都市)

古澤礼太、開催地からの提案としての「流域圏ESDモデル」の発信、ESDユネスコ世界会議・併催イベント「生命地域・流域圏で進めるESD」、2014年11月11日、名古屋国際会議場(愛知県・名古屋市)

古澤礼太、地域課題を総合的に取り扱うESD教材に関する一考察 - 伊勢・三河湾流域圏を対象としたESD活動の事例から -、日本教材学会第26回研究発表大会、2014年10月、中部大学(愛知県・春日井市)

FURUSAWA, Reita, The Bio-region Based ESD Model in Chubu Area (Aichi-Nagoya), Japan, International Symposium on "A Decade of Regional Centres of Expertise on ESD: Reflections and Advances in Asia-Pacific", 26-28 Aug. 2014, Universiti Sains Malaysia, (Penang, Malaysia)

古澤礼太、ガーナ共和国アクラ地区・ガ民族の発酵食文化、第51回日本アフリカ学会学術大会、2014年5月23-25日、京都大学(京都府・京都市)

古澤礼太、持続可能な開発のための教育(ESD)の利用価値、持続性研究会、2014年5月12日、中部大学名古屋キャンパス(愛知県・名古屋市)

古澤礼太、生命地域・流域圏におけるESD推進の取組み、第1回流域圏ESD研究会、2013年12月28日、中部大学名古屋キャンパス(愛知県・名古屋市)

FURUSAWA, Reita, The Roles of Sejahtra Center among Asia-Pacific RCEs - Sustainability Park and Citizens' Participation -, Education for Sustainable Development(ESD) International Forum 2013 Learning & Sharing for Sustainable Future, 15-16 Dec. 2013, (Tongyeong, Gyeongsangnam-do, Republic of Korea)

FURUSAWA, Reita, Preparations of the Host City Aichi-Nagoya toward the UNESCO World Conference on ESD, 6th Asia-Pacific RCE Conference, 0-21 Oct. 2013, Kitakyushu International Conference Center (Kitakyushu, Fukuoka)

古澤礼太、東海・中部地域におけるESD推進モデルの構築に関する一考察--中部ESD拠点(RCE Chubu)の事例から--、日本環境共生学会第16回学術大会、2013年9月28-29日、豊橋技術科学大学(愛知県・豊橋市)

古澤礼太、ガーナ共和国アクラの葬送儀礼に見る親族内の贈与 - オス地区のT親族の事例から -、日本アフリカ学会第49回学術大会、2012年5月26-27日、国立民族学博物館(大阪府・吹田市)

〔図書〕(計9件)

古澤礼太(編)『第3回 流域圏ESD研究会報告書:伊勢志摩サミットへの地域からの提言~伊勢三河湾生命流域の持続可能な開発をめざして~』、中部大学サービスドキュメントセンター、2016、53

古澤礼太、他、「持続可能な開発のための教育(ESD)の現状と発展可能性 - SD観の多様性を活かしたESDの発展可能性 - 」、持続性研究会(編)『持続性再考論 - 持続性は破綻しない - 』、中部大学サービスドキュメントセンター、2015、34-49

古澤礼太、影浦順子(編)『流域圏の持続可能性を高める~伊勢・三河湾流域圏ESD講座の取り組み Vol.3~』、中部ESD拠点協議会、2015、67

古澤礼太、影浦順子、松野正太郎、馬場恭子(編)『中部ESD拠点2014年プロジェクト Vol.3 ~2014年度の取り組み~』、中部ESD拠点協議会、2015、86

FURUSAWA, Reita & KAGEURA Junko (Ed.), *The Bioregional ESD Practices*, RCE Chubu, 2015, 44

古澤礼太、鎌田可奈、影浦順子(編)『流

域圏の持続可能性を高める~伊勢・三河湾流域圏ESD講座の取り組み Vol.2~』、中部ESD拠点協議会、2014、70

古澤礼太、影浦順子、松野正太郎、馬場恭子(編)『中部ESD拠点2014年プロジェクト~2013年度の取り組み~』、中部ESD拠点協議会、2014、69

古澤礼太・鎌田可奈・影浦順子・松野正太郎(編)『流域圏の持続可能性を高める~伊勢・三河湾流域圏ESD講座の取り組み Vol.1~』、中部ESD拠点協議会、2013、66

古澤礼太、影浦順子、松野正太郎、馬場恭子(編)『中部ESD拠点2014年プロジェクト ~2012年度の取り組み~』、中部ESD拠点協議会、2013、281

〔産業財産権〕
○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

報道関連情報(計8件)

古澤礼太、「流域圏全体課題共有を 中部拠点事務局長 ESD 会議明日開幕」、読売新聞、2014年11月9日、30

松浦晃一郎、白井貴子、古澤礼太、「ESD 座談会 ESD を通して描かれる地球の未来は」、中日新聞、2014年11月7日、19-20

古澤礼太、他、「朝日ESDシンポジウム2014(採録)朝日新聞、2014年11月6日、20-21

古澤礼太、「ESD 愛称アイデアは? 来月名古屋で国連会議」、中日新聞、2014年10月11日、11

古澤礼太、「ESD ユネスコ世界会議」11月、愛知・名古屋で開催 ESD の意義や会議の狙いを聞く」、日本経済新聞、2014年6月27日、28

古澤礼太、他、「ESD イヤー キックオフ パネルディスカッション ESD の肝は多様性との付き合い方(古澤)」、(採録) 中日新聞社、2014年2月10日、9

古澤礼太、「ESD って何だろう? 中部大学の古沢先生に聞きました」、中日新聞、2014年1月1日、16

松浦晃一郎、古澤礼太、百瀬則子、「朝日ESDシンポジウム2013」(採録)朝日新聞、2013年12月15日、28

アウトリーチ活動(計19件)

古澤礼太、持続可能な開発に関する国際的動向の中での伊勢・三河湾流域圏活動、伊勢湾再生機構「伊勢湾再生フォーラム2016」、2016年3月5日、名古屋文化短期大学

古澤礼太、未来をひらくESD～地域と世界のESD事情～、名古屋市立名東高等学校「ESDフォーラム」、2016年2月6日、名古屋市立名東高等学校

古澤礼太、流域圏の視点から持続可能な社会づくりを学ぼう、岡山市環境局「ESD市民フォーラム」、2015年10月25日、岡山国際交流センター

古澤礼太、ESDがめざす協働社会、愛知県立みあい特別支援学校「ESD講演会」、2015年7月30日、愛知県立みあい特別支援学校

古澤礼太、ESDはこれからだ!みんなで学ぼう地球の未来、名古屋市千種生涯学習センター「なごや環境大学共育講座～2040年の地球環境を考える～」、2015年6月24日、名古屋市千種生涯学習センター

古澤礼太、持続可能な開発/発展のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)の現状、豊田市立藤岡南中学校「ESD講習会」、2015年6月8日、豊田市立藤岡南中学校

古澤礼太、ミラノ万博へ 愛知の市民メッセージ～ESDで愛知とミラノの架け橋を～、ときの羽根『ミラノから未来へ～Da Milano verso il futuro～』、2015年5月20日、ミラノ万博日本パビリオン、イタリア・ミラノ市

古澤礼太、ESDにおける多様性の愛し方、エコプラットフォーム東海「とことんトーク」、2015年4月19日、ウィルあいち

古澤礼太、流域圏単位で進めるESD(持続可能な開発のための教育)伊勢湾流域圏再生フォーラム、2015年2月28日、名古屋文化短期大学

古澤礼太、「ESDユネスコ世界会議」開催地におけるESDの新たな展開、愛知県ユネスコスクール交流会、2015年1月21日、ウインクあいち

FURUSAWA, Reita, 「ESDに関する

ユネスコ世界会議」公式ワークショップ(Cluster 4: Local Initiative)コーディネーター、2014年11月12日、名古屋国際会議場

古澤礼太、開催地からの提案としての「生命地域ESDモデル」の発信、朝日ESDシンポジウム2014、2014年10月10日、東建ホール

古澤礼太、グ・ローカルに考えるESD、春日丘高等学校文化祭講演会、2014年9月19日、春日丘高等学校

古澤礼太、流域圏単位で持続可能な社会づくりを考える、中部の環境を考える会、2014年6月29日、中部大学名古屋キャンパス

古澤礼太、地域の課題解決をめざすESD～ESDユネスコ世界会議を迎えるこの地域に求められるもの～、愛知県公民館連合会総会・講演会、2014年6月3日、名古屋市公会堂

古澤礼太、ESDユネスコ世界会議に向けた開催地ネットワークの取組み～流域圏の持続可能性を考える～、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議講演会、2014年5月10日、レディヤンかすがい

古澤礼太、東海・中部地域における流域圏を対象としたESD活動の推進～伊勢・三河湾流域圏から生物多様性を考える～、ESDテーマ会議2013(主催:「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム)2013年10月19日、岡山コンベンションセンター

古澤礼太、東海・中部地域のESDネットワークづくり～中部ESD拠点の取組み～、朝日ESDシンポジウム2013(主催:朝日新聞社)2013年11月13日、名古屋国際会議場

古澤礼太、中部地域におけるESD(持続可能な開発のための教育)の取組みについて、愛知県庁環境管理推進員研修会(主催:愛知県環境部)2012年8月30日、ウィルあいち

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古澤 礼太 (FURUSAWA, Reita)
中部大学・中部高等学術研究所・准教授
研究者番号: 70454379